

パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 2004年7月1日発行 第10号



第五回海外協力青年ボランティア（八月二十四日～九月十四日）プロジェクトはエスペランサ村に中学校校舎建設に決定！

エスペランサ学校校長からの要請文
南北米福地開発協会 神山 威会長様

「南北米福地開発協会を代表する神山威会長にお手紙を差し上げることをご大変嬉しく思います。今までエスペランサ村の学校建設に対して多大な貢献をしていただきました。私達チャマコ族一同心より感謝しております。二〇〇一年に小学校二階建て校舎建設にあたり、一階部分の木材による壁、ドア、窓、電気配線、二枚の黒板等二〇〇二年には一階の床、廊下部分をコンクリートにする等、援助していただきました。パラグアイの義務教育もようやく私達が住む、奥地にも影響が及ぶようになり今年より中学課程一年生、二年生を教えることに決まりました。しかし、まだその為の教室がありません。村の指導者と話し合っており、関係者に八方手を尽くしたのですがまだ解決できておりません。そのため、再度、南北米福地開発協会にお願いする以外にありません。中学課程の為の三教室の建設をよろしくお願致します。

学校長 マリア ロメロ マルチネス

現地では活躍する神山会長、日本から現地を訪問した飯野事務局長は六月二二日、エスペランサ村を訪問、村長、学校長と話し合い、村の要請を喜んで受け入れ中学校校舎建設を行なう事を約束した。



南北米福地開発協会事務局

〒一五〇〇〇〇一東京都渋谷区神宮前六一一九一四

神宮前ハッピービル十階

電話（〇三）五七七四一〇五四四

ファックス（〇三）三四〇七〇一四五

インディヒナ、エスペランサ村中学校校舎建設に支援を！！

子供達の教育の充実こそインディヒナの村の生活改善の道。

南北米福地開発協会がパラグアイ、チャコ地方、パンタナール湿地帯レダにて持続可能な開発をなしてきました。レダ近隣はインディヒナの村があり、その村々は非常に貧しく、生活の糧は数頭の家畜と現地で自然に生育する芋の一種「マンジョウカ」やその栽培、また、原生林の中の動物を狩り、蜂の蜜を集めるなどでなされています。浄水設備もなく、川から直接水を汲みそれを飲料水として用いている状況です。

子供達の教育は少しずつ改善されているが経済的理由で本もノートも無く、三十パーセント以上が途中で小学校を断念することです。当協会はレダにて活動を始めて以来、毎年、近隣の村の校舎の建設と文具の援助をなしてきました。

今年には隣村の子供達が中学校に進むため、既に中学校の先生が赴任して来ていながら教える校舎が無いとのことで要請を受け、中学校の校舎を建設する事を決定しました。建設予算は四万ドルです。教育の向上が将来必ず、この村の向上に繋がると信じています。皆さんの支援を心からお願ひします。



小学校に並行して中学校を建設予定



支援金を送る口座
 南北米福地開発協会 代表 飯野貞夫
 郵便口座 00180-3-160368
 通信欄にボランティア支援とお書き下さい。



レダ開発地域訪問報告（六月十四日～二十七日）

柴沼記

当協会が支援し、開発を進めているレダを訪問してきました。今回の訪問は現地で歩む神山会長、ならびにスタッフと日本側、飯野事務局長、私とが現地です。今後の開発の方向性について討議する事が目的でした。過去四年半の滞在で現地の自然環境の把握、また近隣のインディオの村々の現状にも精通してきた上で、どのように進めていくかが課題となりました。私達

それとともに近隣のインディオの村々が向上することをどのようになす事が出来るかに力を注ぐ事を確認しました。レダ開発が始まって以来、過去4年に亘って毎年、隣村の学校建設を助けてきました。今年もエスペランサに中学校の校舎を建設する予定ですがそのような援助だけでなく隣村が自立の道を歩み、生活の向上をなす事が出来る自活の道を示す事が今後、3年の課題であり、そのための研究と投資に力を入れる事に努力する事を確認しました。

